

令和7年度 福井県立嶺南西特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援 研究研修	子供たちの教育的ニーズを的確に捉え、個々の学びを支援する授業実践に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人に合わせたわかりやすい授業が実践されていると感じている保護者が92%（中学部）と100%（小学部・高等部）という結果だった。このことから子供の内面やニーズを適切に把握し、教師間で共通理解することにより、個々の課題に対する精度の高い支援ができたと考え。（教員の取組指数はすべての学部において100%であった。）</li> <li>研究研修の取組では全校で100%を達成した。研究テーマのもと、授業研究会や校内研修において、全教員が子供の内面の育ちを真摯に見つめ、組織的に見守り支援していく実践を通して、子供の確かな育ちを支える支援体制が整ってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業づくりのもとになる個別的教育支援計画や個別の指導計画の活用により、教員間の共通理解や授業との繋がりを図り、一人一人の障がい特性や発達段階、学びに応じた支援をさらに充実させていきたい。</li> <li>研究助言者として引き続き、福井大学 笹原准教授に協力を依頼する。また、学部ごとにグループ助言者（特別支援教育室、嶺南教育事務所、特別支援教育センター）を置き、研究実践のさらなる質的向上を目指す。</li> <li>ワークショップ形式の研修の定着を図り、主体的に学ぶ教師集団を目指す。</li> </ul>
教育課程 学習支援 研究研修 小学部	意欲の向上や達成感に繋がる支援を通して、児童自ら気付いて行動しようとする力を引き出す授業の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者（100%）、教職員（100%）とも目標指数をクリアすることができた。学習活動の中で、児童の興味・関心を考慮しつつ、自ら考えて行動できるような場面をできるだけ多く設定するために、教師間の話し合いを重ねながら授業づくりを進めていくことができたと考え。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の反省や課題を検証し、児童が自ら行動しようとする力を更に高められる授業を展開していきたい。そのために、支援に当たる教員が児童一人一人の実態を踏まえて情報を共有し、学習内容や支援方法を見直し、改善できるよう努めていきたい。</li> </ul>
教育課程 学習支援 研究研修 中学部	意欲を高める学習内容を設定し、身に付けた力や経験を基に、自ら行動する力を引き出す授業の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者（92%）、教職員（100%）とも目標指数をクリアした。生徒の実態や興味・関心を踏まえた学習内容を設定し、経験を積むことで、それぞれの生徒が見通しや目標をもち、自ら意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。また、学部会や研究会等で教師間の話し合いを通して、支援の在り方について共有することで、共通理解をもって支援することがおこなわれてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の意見については、即時に学部会で情報共有し改善策の検討を行い、共通理解のもと学習支援を進めている。今後も、行事や授業について見直しを行い、生徒一人一人の実態や課題を踏まえた学習内容、形態を検討し、計画的に進めていくよう努める。また、保護者や関係機関とも連携を密に図りながら、生徒の思いに寄り添った支援ができるよう努める。</li> </ul>
教育課程 学習支援 研究研修 高等部	学習の成果や個人の考えを発表する場、卒業後の生活を捉えながら自分に必要なことを考える場を設定し、生徒が目標と使命感をもって校内外で活動できる授業の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、教職員とも目標指数をクリアした（100%）。各授業や校外での実習等から、卒業までに付けたい力や課題について生徒とともに確認し、個々に応じた具体的な取組ができた。また、ICT機器を活用して生徒の知識や情報の量を拡充したり、質を高めたりして発表の場に生かすことができた。生徒はこれらの経験をjして自信をもち、さらに学習への意欲を高めることができたと考え。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内だけでなく交流学習や作業製品販売会等、校外においても自分の意見を伝えられるような発表の機会を積極的に設けていきたい。</li> <li>ICT機器を有効活用することで、生徒たちは、より表現しやすくなったり具体的な内容で振り返り活動ができるようになったりしているため、継続して取組たい。</li> </ul>
生徒支援	児童生徒が最大限の力を発揮できるような学校行事や児童生徒会・委員会活動、部活動の企画・運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事を昨年度の反省を踏まえつつ安全に運営することができた。体育大会およびやまも祭の満足度は教職員100%、保護者99%であった。体育大会は雨天のため体育館開催となったが、雨天リハーサル等により大きなトラブルもなく保護者誘導も含めスムーズに実施できた。やまも祭の舞台発表は日頃の学習の成果を発表する内容に移行してきているが保護者からも十分な評価を得ている。</li> <li>「児童生徒会だより」は2年目を迎え、児童生徒会の活動内容をより広く伝えることができ、保護者99%の評価を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育大会は本年度、雨天時の体育館開催でも十分な満足度を獲得できていることを踏まえ、来年度は予備日を設けずに当日開催の方向で計画していきたい。また、やまも祭は保護者の方々に気持ちよく観覧などしてもらうために舞台発表、展示などの会場配置にも気を配って計画していきたい。</li> <li>児童生徒会だよりは来年度も児童生徒の様子がよりよくわかるように伝えていきたい。</li> </ul>
	日々のクラス活動などを通じ、自分自身を大切にす意識や友達を思いやる意識を高めることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>満足度は教職員98%、保護者97%と目標指数をクリアできた。毎月、各学部内において、児童生徒の人間関係のトラブルがないか情報共有を行った結果、年間6件のいじめ事案を早期確認し、いじめ対策サポート班などで早期対応することができた。現在はすべて解消済みで注視を継続している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達関係のトラブル未然防止に向け、保護者や教師間の情報を共有し縦横の連携の中で問題の早期の発見、対策、対応を心がけたい。また、SNSでのトラブル防止に向け、情報モラル教室等も引き続き、実施していきたい。</li> </ul>
進路支援	進路面談等で本人や保護者のニーズを聞き取り、それぞれの目標に応じた実習が行えるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人・保護者からのニーズにより、リモートによる現場実習や医療的ケア児の現場実習等、今までの実習先以外にも幅が広がってきた。一方、生活介護事業所の受け入れが今後難しくなる傾向なので対応していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しく開所した事業所等を積極的に紹介し、現場実習で幅広く体験できるように、見学会や面談を通して情報提供に努める。生活介護連絡会と協力し、見通しをもって受け入れてもらえるように、学年別の希望者数等の情報を提供していきたい。</li> </ul>
	福祉制度やサービス等の進路情報を積極的に提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度より始まった就労選択支援サービスについて、外部講師を招いて高等部の保護者・教師を中心に説明会を開き、制度の周知に努めることができた。小・中学部の保護者への進路情報の提供について今後どうしていくか引き続き検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庶務部開催の座談会で、進路支援部として参加した進路関係のテーマに関心が高かった。見学会やホームページでの発信以外に卒業後の生活をイメージできるように、いろいろな機会をとらえて積極的に情報を発信していきたい。</li> </ul>
保健管理	保健安全管理に対する意識の向上と、日常生活での習慣化へ向けた取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者99%、教員100%と目標指数をクリアできた。朝の健康観察や手洗い等の健康管理を継続しつつ、学校安全の取組についてもホームページ等で広報することができた。ショート避難訓練を2回実施することができた。更に学校安全全体を見直し、児童生徒に最適な取組について検討していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心安全な学校生活を目指し、毎日の健康チェックや衛生的な生活習慣づくりの指導、交通安全教室や避難訓練等を通じた安全教育の在り方について見直し、優先順位を決めて実践していく。また、取組の様子をホームページ等で情報発信していく。</li> </ul>
	地場産物を活用した学校給食をはじめ、食に関する活動の充実を目指して、食育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者97%、教員100%と、目標指数をクリアできた。地場産物の活用とともに、1年を通じて行事食等の特色ある学校給食を提供し、食育を実践することができた。さらに、工夫していくことで食育を推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒へより安心安全な給食の提供を引き続き心がけ、給食の時間の指導（行事食や食材の紹介等）も継続していく。保護者の方々にもより満足してもらえるよう、ホームページや給食だよりを活用して地場産物や食に関する情報を発信していく。</li> </ul>
PTA連携	地域社会と連携しながら、会員相互の交流が深められるような企画・運営に取り組むとともに、より多くの会員が参加できるように日程や内容などの情報を分かりやすく発信していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者98%で目標指数90%をクリアできた。夏の「みんなであそぼっちゃ」、秋の「マジックショーと若狭ウインドアンサンブル公演」、冬の「関電クリスマス会」は、いずれも50名以上の参加がありアンケートを見ても高評価であった。今年度は各行事案内にイラストや写真付きのチラシを配付したことで宣伝効果もあったと思われる。制服及び体操服譲渡会も好評であった。PTA総会時の地区別懇談会と前期成績報告会時の座談会は多くの参加があった一方、北知P講演会とその後のわいわい座談会は少人数の参加にとどまった。参加者を多くするために工夫や改善が必要と感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの方に参加してもらえるよう企画担当委員会で工夫していきたい。また、チラシ配付は効果があるので継続して行いたい。</li> </ul>
	会員のニーズを理解し、行事の報告や地域の情報等を分かりやすく伝えられるPTA広報誌の制作に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者100%、教職員98%で目標指数90%を超えることができた。1学期はクラスと教職員紹介の号外、2学期と3学期に各1回ずつ計3回発行している。2学期の広報誌では、広報委員の方々からの提案で中学部・高等部の現場実習の特集記事を進路支援部の協力を得ながら掲載することができた。卒業後の進路先や実習の様子について小中学部の保護者の方にも分かりやすく情報提供ができたと考え。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員にとって必要な情報を分かりやすく伝えられるよう、広報委員会において内容や構成を考えながら充実した広報誌を作りたい。</li> </ul>